

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2294200536		
法人名	株式会社宇宙SORA		
事業所名	グループホーム ファミリア西脇		
所在地	静岡市駿河区西脇521-1		
自己評価作成日	平成28年10月3日	評価結果市町村受理日	平成28年11月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kami=true&amp;jiyosyoCd=2294200536-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kami=true&amp;jiyosyoCd=2294200536-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成28年10月22日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

「家族の和を基とし、常に互いを尊敬・感謝する心を持ち、共に学び、共に支え、共に歩む」を毎日唱和し、思いやりの心を大切にして接するよう日々心掛けています。また、基本理念の唱和だけでなく、ホーム会議等で理念の再認識を図り、思いやりの精神の意識統一を図っています。最近では近隣の方々も気軽に立ち寄ってくださいます。また、町内の皆様がボランティアで、植木の手入れや行事の参加など率先して関わってくださるようになりました。地域の方々に支えられていることを実感しています。今後もご家族様の思いを大切にして、お客様本位の介護を目指し、その方にとって最善の方法を考えながら支援に努めさせていただきたいと思っております。(自社ホームページのSORA日記で日ごろの様子が見られます。)

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

玄関アプローチは鉢植えやプランターがぎっしりと並んでの出迎えがあり、屋内にも香しい薔薇や秋の草木が至るところに配されています。玄関扉は強風がなければ開け放し、近隣の高齢者も訪れる場所になっています。町内会長が植木の刈込を下さったり、民生委員が地域ボランティアに呼びかけ新聞紙でゴミ袋をたくさん届けてくれたり、お祭りでは見学場所が予め確保されていたりと、地域から絶大な支援を得ています。事業所も①12ヶ月の行事計画立案及び実施 ②好天日の散歩慣行 ③介護計画書を通じての家族との関係構築 ④防災訓練に消防署の指導を仰ぐ と前回の外部評価で立てた目標を達成させ、期待に応えています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念を施設内に掲示し、毎日朝礼にて唱和している。社内研修を行い、全スタッフに基本理念の教育を行っている。調和が乱れてくると、ミーティングで意識の再確認するために話しあっている。	採用時にオリエンテーションで伝え、毎日朝礼で唱和をリフレインすることで理念を身近なものとしています。管理者が「ぜひこの機会に」と思い立ったときや、研修会には「思いやりについて」話し合い、相手を尊重した人材育成に努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の行事には積極的に参加し、交流を深めている。また、ボランティアの方々もホームの行事に参加してくれており、地域の一人と理解してくれている。	玄関は開け放しているため、近隣の高齢者も訪れる場所になっています。町内会長が植木の刈込を下さったり、民生委員が地域ボランティアに呼びかけ新聞紙でゴミ袋をたくさん届けてくれたり、お祭りでは見学場所が予め確保されていたりと、頭の下がる応援が日々あります。	「協力してもらっただけでなく事業所も何かを協力する気持ちをもちたい」とのことでしたので、今後は具体的な検討を期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	突然、近隣の方が相談に来られることがある。時に来られる本人が認知症の疑いがある場合もあり、傾聴受容している。包括や民生委員も情報共有する時もある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は二か月に一回、定期的に開催し、近況報告を行っている。話し合いの中で包括、町内会、民生委員、ふれあいサロン、ご家族様の情報交換が出来て実践に繋がっている。	メンバーにはふれあいサロン(S型デイサービス)の会長も出席くださり、偶数月の第三水曜日と前もって告知して、スムーズに開催にいたっています。静岡済生会総合病院の研修資料を用いての「緊急時の協力について」といった勉強会も付帯させています。	家族の参加者が現在固定で1名なので、議事録の送付や年1度程度は夜間や土日開催とする工夫を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者にはその都度、開催案内を送らせて頂いている。可能な限り出席をしてもらっている。疑問点は直接電話して解答を得ている。市の相談員はお客様から色々な情報を聞き、職員と違う視点で関わってくれている。	運営推進会議には介護保険課職員も年1回の出席があり、地域包括支援センターからは毎回出向いてもらっています。職員の疑問には管理者の主観で回答せず、必ず市役所に電話確認するようにしています。介護支援相談員も毎月訪れ、シニアサポーターの活用もあります。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束0宣言」をしている。何が身体拘束なのかをミーティングや研修にて学習している。時にはケアを振り返り、事例をあげ拘束にあたるか、あたらぬか話し合いを行い、意識の統一を図っている。	ホーム会議で事例検討をおこなったところ、「まだまだ」と職員の声もあって3回連続のテーマとするほどで、意識の高さが覗えます。タッチや声掛けなどのふれあいが増えることで落ち着きを取り戻すことを指導し、現在は2階窓を開け布団を干しても心配がない環境があります。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	厚生省の資料を基に、ミーティングや研修で学んでいる。普段の生活の中で「言葉の虐待」はないのか等、話し合っている。時に、職員の身体、心理状態により、勤務中に危険な行為になりかねない。ストレスを溜めないように面談を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティングを通じ、制度に関する理解を深めている。ご家族様の相談に応じ、必要であれば制度活用の支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	相談を受け入居に至る経緯の中で、不安や疑問等に答え、契約時には十分な読み合わせを行い、分かりやすい説明を行っている。入居前、入居後も尋ねやすい雰囲気配慮に心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	気付いた事を積極的に言って下さる環境になってきている。貴重な意見を真摯に受け止め、改善が必要な場合は職員全員で話し合い、実践に取り組んでいる。	家族との親睦会を年2回企画し、全員ではないものの個別面談も年1回おこない、言ってもらえる状況をつくっています。また法人ホームページには「そら日記」が本年度誕生し、面会に来れない人も普段の様子を知ることができるように成されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	半期に一回の面談を行っている。その他、ミーティングや個々の意見を聞く機会を作り、運営に反映させている。	防災、感染症対策、身体拘束及び虐待排除、環境整備との委員活動で責任感を養い、各月にいくつもある行事担当では「日頃みられない力を発揮する」と管理者が感心するほどで、小さなことでも発案意見が挙がっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当の支給、業務実績等による昇給、向上心を持って働けるように、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの実際と力量を把握するように努め、介護マニュアルを活用し、介護技術の向上の為、研修を行っている。また、個々のスキルアップに繋がられるよう外部研修を勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議に出席し、同業者やサービスの異なる専門職との意見交換を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の情報を基に、ご本人の意向を確認しながら、安心して生活できるよう配慮に努めている。入居後は環境も異なり、不安要素が多い為、見守り声掛け等、関わりを密にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、ご家族様の要望やご本人への思いをじっくり伺い、入居後の様子を細かく伝え、安心して任せて頂けるよう、信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	生活する中で要望されているサービスの提供が出来るか状態を見極め、他のサービスが必要な場合は、ご家族様と相談しながら、ご本人にとって良い方向を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族の和を基とし、職員、入居者様が共に支え合い、共に歩んでいける生活が出来る様、思いやりを大切にし、入居者様に寄り添う支援に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の様子を随時、報告させて頂き、情報を共有できる様、家族とのコミュニケーションに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様は勿論、友人、知人も尋ねて来られる。ご本人の兄弟姉妹、親戚等、自由に来訪されている。時には、宗教関係の方も来られる場合がある。	ユニット入口に面会簿を用意していますが、「毎日面会がある」家族には職員が記録をとることで負担をなくす配慮があります。家族だけでなく、華道師範だった人の弟子や宗教仲間の訪問もあります。1階の日めくりは利用者が交替で毎日めくって「継続のバトン」をつないでいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性を把握し、見守っている。職員が随時見守り、話し合い、席を変更したり、間に入ったりし、支援している。また、共通に楽しめるレクリエーションや音楽などを通して、孤立しないよう支援に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今までの信頼関係を大切に、契約が終了になってからも連絡を取っている方もいる。相互に相談し合える関係を継続できる様に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に利用者本位の暮らしを尊重し、思いや希望の把握に努めている。必要であれば、ご家族様と一緒に考え、希望に沿えるよう支援に努めている。	理念、コンプライアンス、接遇については年間研修に位置付けられ、指をしゃぶったり、たこができる利用者に「タオルを置くのは拘束なのは？」といった検討を重ね、例えば「ペットボトルの容器に指を通す穴をつくり、握力づくりも兼ねて握ってもらう」との対策が立てられています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントの重要性を認識している。入居後、新たに情報を取ることもあり、十分な把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活から心身の状態や今出来る事・出来ない事の現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスや担当者会議では、日頃接している職員と話し合い、意見をまとめ、現状の課題に即した介護計画書を作成している。	産休明けで介護支援専門員が復職して兼務が解け、また各フロアの計画作成担当者との連携を以て本来の態勢を取り戻しています。「担当者会議に家族に同席してもらいたい」と尽力中ですが、現在は看取りのときのみとなっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や排泄記録、バイタルチェック表を活用し、情報の共有に努めている。カンファレンスを行い、ケアの統一や介護計画書の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	生活過程での新たなニーズに対して、家族と相談しながら、福祉用具の取り入れ、マッサージや外部医院の受診等の支援に柔軟に対応している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員の働き掛けにより、住民の方々が行事は勿論のこと、ホームで必要なウエス等を作ってくれたり、植込みの剪定まで地域の方が援助してくれている。シニアサポーターも、お話ボランティアで来て入居者の皆さんの生活を支援してくれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、本人や家族の希望を大切に、従来のかかりつけ医へ家族の付き添いで受診される人もいる。施設提携医は月2回の往診と緊急時の往診をしている。また、24時間対応できる体制になっている。	従来のかかりつけ医を続けるのは1名のみです。他は月2回の訪問診療と必要に応じて往診くださる協力医に変更しています。医師を通じて同医院の看護師が駆けつけてくださることもあり、24時間オンコールの安心の医療体制ができています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回、訪問看護師による健康チェックや処置及び指導を受けている。特に日々の健康管理で医療的な不安や疑問も相談できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院との連携に努め、安心して退院を迎えられるよう、家族とも密な連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、重要事項説明書にある「重度化した場合の対応に関わる指針」の内容に基づき、今後状態の変化が見られた場合、医師、家族、ホームで話し合いを行い、方向性を考えていく旨を伝えている。本年度も数名、看取り対応を行った。	協力医が在宅専門なこともあり、看取りには大変協力的です。契約時には簡単な説明ですが、重度化に伴い家族に徐々に伝えて合意形成を進めています。昨年4名のお見送りをおこないましたが、経験を通じて受入れが自然となり、職員は通夜にも参列しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応時は職員全員が対応できる様、その都度指導してきた為、実践出来ている。消防署から出されている「緊急搬送時の情報提供シート」や提携医の「受診連絡票」を記入し、迅速な対応が出来る様、個人台帳で管理している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回、総合訓練と三か月に一回のミニ防災訓練(5分での場所まで行けるか、一階の入居者様を二階に避難させる実践を行う等)を実施している。年に一回、消防署に依頼し、総合訓練指導をお願いしている。	2年続けて消防署の立ち合いを求め、貴重な意見を得ています。また四半期に1度のミニ訓練では津波避難を視野にいれ、車いすの利用者を2階へ上げるとの具体的なメニューもあります。また運営推進会議では地域の皆さんとの熱のある協議があったことも議事録に記載されています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴拒否の人には時間を置いたり、再度、声掛け等をして、入居者様の人格、尊厳を十分に考え、プライドを傷つけない声掛けを心掛けている。また、幼稚性等を排除し、人生を歩まれた先輩として、敬う姿勢を常に忘れない。	面会簿はカード形式で1名につき1枚とし、遡って他人のページを見ることはできないようにしています。利用者一人ひとりの特性を理解し、尊重する姿勢が浸透していて、男性職員も立居振舞や声のトーンが優しげな人ばかりで、見ていて安堵感を覚えます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	共同生活の中で個々の希望や思いを表に出せるよう傾聴の姿勢と環境を整え、生活する中で必要であればご本人が納得できるよう説明をさせて頂き、自己決定できる支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の個々の生活のリズムを尊重し、自己のペースで自宅での生活がここにあると感じられる様、自由に生活が出来る様に配慮し、体調管理にも気を配っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で出来る人は洗面所にて髪をとかしたり、洋服などを見て頂く。地域の美容師が三か月に一回、整容に来てくれる。髪形も本人と相談し、納得いく髪型にしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご入居者様と職員と一緒に準備や盛り付け等をし、食事が楽しみになるように関わっている。また、おしぼりを巻く作業も手伝って頂いたり、皿洗いなどの片付けも一緒にしている。	1階は女子会のような雰囲気でも和気藹々の食卓です。2階は6人がミキサー食になるも食事は介助なくできています。両ユニットもほぼ同じ献立で主菜のほかには2品の副菜がつき、家庭的で馴染みのある味付けで食欲も進みます。刻みや片付けを率先しておこなる利用者もいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は個々の状態に合わせて、刻み、ミキサー、普通食等、食べやすい形状にて提供している。水分摂取が進まない入居者様には、一日1000~1300cc摂取できる様、他の飲物の工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。自分で出来る方は声掛けを促し、最終確認を職員が行っている。歯の痛み、義歯の調整や口腔衛生は、必要時、歯科医師に依頼し、往診してもらっている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを排泄チェック表を用いて把握している。常に意識して声掛けやトイレ誘導を行っている。昼間は全員トイレでの排泄介助を行い、尿意や便意が無い方は、その都度陰部洗浄を行い、清潔が保てるよう支援している。	「声掛け次第でできることもできなくなってしまう」との認識をもって、チェック表に基づく呼びかけを徹底させています。「〇〇さんは便秘マイナス2日からはこの薬～」と個人毎の排便コントロールもおこない、ウエスをお湯で濡らして拭くといった「気持ちの良さ」「清潔」にも留意しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	服薬による排便コントロールをしている入居者様が多い。排泄チェック表を確認し、服薬を調整し排便を促す場合もある。水分摂取も声掛けし、個々に応じた対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には本人の希望を中心に、入浴頻度を把握し、定期的な入浴ができる様に支援させて頂いている。入浴拒否がある入居者様は、時間帯や職員等を変更して、心地よく入浴ができる様に工夫をしている。少しでも不快感無く入浴できる様、声掛けに配慮し、職員間で情報の共有をしている。	週3日程度をめやすとして、希望があれば毎日でも対応しています。拒否の人には毎日誘いかけをおこなうことで、なんとか入ってもらえています。「午後から外出したい」や、行事には前倒しの入浴となることもありますが、洗髪では「美容院にいったみたい」と喜んでもらえています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活パターンを尊重し、日中居室で一人で過ごす時間も大切にしている。閉じこもりや活動低下を引き起こさないよう、適時声掛けさせて頂き、メリハリのある支援を行っている。就寝前は、皆でお喋りしながらテレビ鑑賞し、個人の就寝時間を尊重している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理をするうえで、事故トラブルが起きないように、朝・昼・晩の色別の服薬専用のファイルを作成し、個々の薬の選別を行う。服薬介助時には入居者様の名前・日付を点呼する。薬の空袋はファイルに戻し、別の職員が漏れ間違いがないか確認。別の人が、何重にもチェックを行う体制ができている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の得意分野を知り、その方に合った作業やレクリエーションを行ってもらえる様に声掛けし、お手伝いをして頂いた際は、感謝の気持ちを伝え、やりがいを感じて頂けるように支援している。また、季節を感じて頂けるようなイベントやレクの企画をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の花々を鑑賞したりする外出イベントを企画し、外出の楽しみを感じて頂けるよう支援している。また、気候の良い日は職員と一緒に散歩をしたり、ホームの外で過ごす時間も設け、気分転換を図っている。	青葉公園のイルミネーション、城北浄化センターの花菖蒲や高松公園の桜では同法人の大型車両を借りたり、ピストン送迎でと手間をかけ「全員外出」を実現させています。地域行事の秋祭りや町内運動会のほか「散歩を多く取り入れる」と、年間行事表には太字での記載があります。	



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはお小遣いは管理者が預かり、責任もって管理している。出納の際も、ご家族様に事前連絡をし、不明瞭な買い物が発生しないようにしている。普段の会話の中から欲しい物等を伺い、実際にお金の所持は無くとも、安心して過ごして頂けるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様より希望があれば、随時、電話など繋ぐことが出来る様、対応している。入居者様からお電話の希望がある際は、ご家族様のご在宅の時間を選び、管理者が取次ぎを行っている。お電話でご家族様の声を聴くだけで、安心される事も多い。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間のテーブル・床・手すり等には、毎日ジヤノック清掃を行い、清潔保持に努めている。また壁面には、花火や紅葉など季節ごとの掲示物を、入居者様と一緒に製作し、季節感を感じて頂けるようにしている。	玄関アプローチは両側に鉢植えやプランターがぎっしりと並んでの出迎えがあり、室内にも香しい薔薇や秋の草木が至るところに配されています。2階はやや5Sが足りない点がありますが、総体として掃除が行き届いた清々しい空間です。	1階は修復の跡がみられますが2階のリビングの洗面脇の壁、1階のトイレの壁の穴については早急の修繕を期待します。また2階にはオムツなどの未使用の消耗品が廊下にありますので、見直しをお願いします。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間は安全に自由に移動が出来る様、常に配慮し、入居者様一人ひとりが思い思いにテレビを見たり、会話を出来る様見守りし、時には皆でレクリエーションを行って楽しんで頂いている。また、自室でお昼寝をしたり、読書を楽しまれたり、一人で過ごす時間も重んじている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や写真等を持って来て頂き、居室内に飾ることで、少しでも入居前の空間に近づける様に工夫している。また、孫や曾孫、飼っていたペットの写真、以前の趣味で作成された作品等を飾ることで、自分らしい生活空間作りを工夫している。	風合いある木目調での揃いのベットとチェスト、エアコンとカーテンも事業所で用意していますが、ADL低下には介護支援専門員と家族で相談して介護用ベッドのリース契約をすることもあります。天気がよければ布団を干すことが日課となり、気持ちの良い眠りへの準備もみられます。	いくつかの部屋にある未使用の消耗品の置き場所または置き方について家族と相談していくことを期待します。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全面には十分配慮し、声掛け見守りにてご自分で出来る事を確認し、能力の維持に努めている。介助が必要な方には、過度な介護にならないよう気を付けており、常に潜在能力に着目し、安全に配慮した自立支援を目指している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2294200536		
法人名	株式会社宇宙SORA		
事業所名	グループホーム ファミリア西脇		
所在地	静岡市駿河区西脇521-1		
自己評価作成日	平成28年10月3日	評価結果市町村受理日	平成28年11月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhvu_detail_2015_022_kami=true&amp;jiyosyoCd=2294200536-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhvu_detail_2015_022_kami=true&amp;jiyosyoCd=2294200536-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成28年10月22日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

「家族の和を基とし、常に互いを尊敬・感謝する心を持ち、共に学び、共に支え、共に歩む」を毎日唱和し、思いやりの心を大切にして接するよう日々心掛けています。また、基本理念の唱和だけでなく、ホーム会議等で理念の再認識を図り、思いやりの精神の意識統一を図っています。最近では近隣の方々も気軽に立ち寄ってくださいます。また、町内の皆様がボランティアで、植木の手入れや行事の参加など率先して関わってくださるようになりました。地域の方々に支えられていることを実感しています。今後もご家族様の思いを大切にして、お客様本位の介護を目指し、その方にとって最善の方法を考えながら支援に努めさせていただきたいと思っております。(自社ホームページのSORA日記で日ごろの様子が見られます。)

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

玄関アプローチは鉢植えやプランターがぎっしりと並んでの出迎えがあり、屋内にも香しい薔薇や秋の草木が至るところに配されています。玄関扉は強風がなければ開け放し、近隣の高齢者も訪れる場所になっています。町内会長が植木の刈込を下さったり、民生委員が地域ボランティアに呼びかけ新聞紙でゴミ袋をたくさん届けてくれたり、お祭りでは見学場所が予め確保されていたりと、地域から絶大な支援を得ています。事業所も①12ヶ月の行事計画立案及び実施 ②好天日の散歩慣行 ③介護計画書を通じての家族との関係構築 ④防災訓練に消防署の指導を仰ぐ と前回の外部評価で立てた目標を達成させ、期待に応えています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所に掲示している基本理念を毎朝、朝礼時に唱和している。また、ミーティングや社内研修等で理念の内容を考え、全員が意識する様、日々の業務を行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	ホームの行事にはボランティアの方や町内の方々が来て下さっている。また、地域の祭りや行事にも参加し、交流を深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員やふれあいサロンの方々との交流を図り、信頼関係を築くことができた。自分たちの関わりや支援方法を発信できている。最近では、近隣の方も相談に来て下さるようになった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一度、運営推進会議を開催し、ホームの細やかな状況を報告している。また、出席者の立場から情報や意見を交換し、会議の内容を記録に残し、今後に生かせるように努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者へは運営推進会議開催の案内書を送っている。グループホームの事業所も多く、年に一回程度の出席になると話されている。運営において疑問に思ふ事などは、直接電話をし、回答を得ている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム会議でも身体拘束について全員で話し合い、禁止行為となりうる事は徹底して実践しないように教育している。「身体拘束0宣言」を意識したケアに努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての講習会へ参加し、ホーム会議にて内容報告し、「どの様な事が虐待になるのか？」を全員に周知する様、努めている。また、社内の研修やミーティングにおいても、勉強する機会があり、日頃のケアを振り返り、防止に繋げている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティング等で学ぶ機会を設け、また個人でも学ぶように努めている。ご家族様からの相談には耳を傾け、必要であれば制度の活用支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居に至る経緯の中で十分な説明を行っている。契約時には、さらに細かな説明を行い、内容と疑問点や不安点を尋ね、理解納得の上、契約の取り交わしを行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に得られた情報は、その都度職員で共有し、統一したケアができる様にしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案は個別面談、申し送りやミーティング等で検討し、職員が統一できるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や勤務態度、勤務実績を把握し、評価に努め、給与規定に則り、資格手当や業務実績を勘案し、毎年、昇給を行う等、日々向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の個性を大事にし、長所を伸ばし、短所を改めるように、日々の業務連絡等を通じ、教育を行っている。また、介護技術の向上やケア方法の注意点など、ユニットリーダーを中心に教育している。また、希望者は外部研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議に出席し、同業者との意見交換や異業種との情報交換を行っている。また、行政機関とも交流を図り、案件の紹介や連携を図っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントを実施し、入居前に情報の周知に努めている。入居後は大きく環境の変化が訪れる為、戸惑いや不安が認知症の進行に繋がらないように、個別で対話を行ったり、細やかな対応ができる様に心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に、生活環境や心身の状態をご家族様より伺い、ご要望を明確にしたうえで、ホームでどのように過ごしていきたいのかを伺っている。それらをケアプランにも反映している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人にとって最善のサービスを提供できるように、状況の把握に努め、速やかなサービス導入ができる様に心がけている。導入時には、事前に家族様に相談・報告をし、納得して頂いたのちに、導入に移行する。必要であれば、外部サービスも含めて選択肢にあげる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	アットホームな雰囲気大切に、職員や入居者様同士がお互い助け合って生活して頂けるように、出来る範囲のお手伝いを依頼し、暮らしを共にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	心身の状態の変化や、通院の依頼、金銭的にご負担頂く場合など、随時、ご連絡させて頂いている。細やかな連絡をする事で、敷居のない関係を築き、小さなことでも相談等がしやすい雰囲気作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様だけでなく、兄弟や孫、ひ孫など、親戚の方々もご訪問頂いている。半日ほど、ご本人の部屋で過ごして一緒にお食事を召し上がられたり、外出、外泊なども自由にして頂ける。近隣のボランティアの方との交流もある。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の個性を重んじ、個々の性格などを把握した上で、トラブルにならないように配慮している。時に席替えを行ったり、職員が間に入り、レクリエーションを提供する等、共に楽しめる時間作りに努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、これまで築いてきた関係性がある為、ご連絡した際も快く対応して下さい。契約終了がケアの終了と位置づけず、その方の人生に関わらせて頂いた関係者として、今後も良き相談相手となれる様、努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	共同生活を行う場であるが、個々の入居者様がほっと安らげる空間、時間作りに努め、ふとした表情の変化を見逃さずに、その方らしい生活が出来るように努めている。ケアプランをご本人に説明し、改めて意向を伺っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様との会話の中で、これまでの生活歴や暮らしてこられた環境など把握できる様、情報収集を意識している。持参された思い入れのある品物などを通じて、今までの趣味や大切に思われている方などを知れる事もある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状態や有する力は日々、変化していくが、常に申し送りやミーティング等で、現状に合ったケア方法の模索している。自立支援を意識し、なるべく有する力を奪う事なく、伸ばせる支援に努め、ケアプランにも挙げる事で、日々のケアに反映させている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成時には、担当職員がアセスメントを実施し、担当者会議で現状の問題点などを精査し、必要であれば医療関係、その他外部のサービス機関とも連携し、より良いケアプランの作成に努めている。その後、家族様に説明し、疑問点や要望などを伺っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別記録にあげ、継続的に問題として挙げられる点は、カンファレンスを開催し、対策を講じている。その際、ケアプランの変更の必要があれば、見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	基本的には往診の主治医が病症の把握をしているが、状態変化に応じて、紹介状を書き、外来に受診できるように支援している。また、介護用品など必要な物品も外注し、提供している。また、訪問歯科、訪問マッサージの利用も出来る。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月、定期的にハーモニカ演奏のボランティアが慰問に来ている。また、行事の際には歌やマジック等のボランティアの慰問を依頼し、入居者様も喜んでくれている。三か月に一回、美容師が訪問し、ヘアカットや眉カットを行い、個々の個性を重んじた髪型にしてくれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医による月二回の往診の他、体調不良時は依頼者のみ往診しており、常に必要な時に適切な医療を受けられる様になっている。同日に処方箋にて、薬も届けられる。また、緊急時には24時間電話連絡にて支援体制が組まれている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回、看護師が訪問し、入居者様の健康管理を行っている。急変時のみでなく、継続的に入居者様の変化を診る事で、医学的な視点から、病症の把握している。また、介護士では困難な介助を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、病状の経過等、必要な情報提供を行っている。また、入院中も時期を見て、管理者が訪問し、経過の様子を伺っている。退院時には、また安心してホームで過ごして頂ける様、職員は治療経過、ケア方法の変更等、情報の周知に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に「重度化した場合の対応に関わる指針」を説明すると共に、実際に重度化や病状の悪化が疑われる時点で、ご家族様や担当医療機関に相談を行っている。早期の段階で、看取りを視野に入れる事で、混乱せず、要望に沿った支援ができる様に備えている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修、ミーティング等で、救急対応の知識を習得し、急変時に適切な対応ができる様に修練している。また、速やかな情報提供ができるように提携病院の受診連絡票を事前に作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回、総合訓練と三か月に一回のミニ防災訓練を実施している。防災委員を任命し、定期的に避難訓練を実施し、災害時の対応、避難時の時間測定などをシミュレーションして、問題点や実際の動きなどを確認している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の性格やこれまでの人生を尊重し、決して上から目線の言葉かけにならないように、自尊心を守る様心がけている。また、排泄や入浴など、プライバシーに関わる介助には、より一層、プライドを傷つけない様な声掛け、対応を気を付けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話で入居者様の話されていた内容を職員間で共有し、悩んでいる事には全ての職員が寄り添えるように、共に悩む姿勢でいる。また、いつでも心の内を話してくれる様、慌たたく業務に取り組まないように意識している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や就寝時間、食事の時間も団らんを主としているが、強制はせず、なるべく本人様のペースに合わせている。健康管理をしつつも、ご本人が負担にならないような一日の時間の流れを重んじている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	三か月に一度、美容師が訪問し、ヘアカットを行っている。その際も、髪形をご本人に相談し、自分の望んだ髪型になるようにカットしてくれている。男性入居者様には、毎日の髭剃りのお手伝いをしたり、爪切りも定期的に行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒にエプロンをつけ料理をしたり、食器洗い、お盆拭き等、会話を楽しみながら行っている。参加して頂くことで、食事に興味を持ち、楽しみに感じられるような雰囲気作りを心掛けている。また、料理の盛り付けも彩を考え、色々なメニューを提供し、飽きない様工夫をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士により栄養バランスを計算されたメニューを作り、刻み食やミキサー食など、個々の状態、その日の健康状態などを配慮し、形状を変えている。10時、15時にはお茶以外の飲み物を提供したり、なかなか水分摂取が進まない入居者様にはポカリゼリーを作ったり、個別対応も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは、義歯や自歯の状態に合わせ、個別の対応を行っている。週一回、訪問歯科の訪問もあり、必要に応じて受診を促している。また、医師から口腔ケアの指導も受けている。		



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様個々の排泄パターンを日頃から相談しあい、定期的なトイレ誘導の為に声掛けを徹底し、羞恥心を常に配慮したケアを実践出来ている。下肢筋力低下のみられる入居者様も、職員2人介助にて安全確保を行い、トイレでの排泄の維持に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便パターンを把握し、水分摂取等で出来るだけ自然に排便できる様、努めている。また、医師との連携を取り、早めの対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様の希望や性格を把握した上で、快く入浴して頂ける様、声掛けに注意している。体調不良による中止はあるが、拒否はほとんどない状態が維持できている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の関わりを増やし、夕方からは逆に落ち着いた就寝できる様に、穏やかな対応を心掛け、就寝前から眠りにつきやすい様、心配りしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理をするうえで、事故トラブルが起きないように、朝・昼・晩の色別の服薬専用のファイルを作成し、薬の選別を行う。服薬介助時には入居者様の名前・日付を点呼する。薬の空袋はファイルに戻し、別の職員が漏れ間違いがないか確認。別の人が、何重にもチェックを行う体制作りができています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お客様の性格を踏まえ、穏やかに一日を過ごして頂けるよう、塗り絵や折り紙、新聞折等を好きな時に無理なく実施して頂いている。入居者様は仕事と感じておられ、職員が感謝する事でやりがいや満足感を感じて頂けるように、配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出イベントを計画し、時期ごとに楽しめる機会を設けている。また、外出以外でも玄関先の花を見に行き、気分転換して頂いている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはお小遣いは管理者が預かり、責任もって管理している。出納の際も、ご家族様に事前連絡をし、不明瞭な買い物が発生しないようにしている。また、少額であれば、ご家族様の承諾のもと、ご本人に所持して頂き、安心感を感じられる様、支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様より希望があれば、随時、電話など繋ぐことが出来る様、対応している。ご家族様のご意向も伺い、入居者様、電話連絡を受けられる相手様が楽しい時間を過ごせるように配慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内は毎日ジヤノックでの清掃を実施し、清潔を常に心掛けている。また、季節感のある掲示物を入居者様を交えて作成し、掲示している。玄関やリビングには、季節の花々を飾っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの視聴など、各々に見たい番組は異なるが、交代制にしたり、トラブルが起きないよう工夫しながら視聴している。席などの配置も、気の合う方等を職員は普段の関わりから情報収集し、心地よく過ごせるように気を付けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた食器、家具、布団、衣類を使用し、ご本人の意向に沿ったレイアウトにしている。大事な人が近くに感じられる様、写真を飾られたり、自分らしさを表現できるような空間作りを心掛けている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に配慮し、声掛けも過度にならないように気を付けている。車いすもご本人が動きやすいように動線に注意し、また、介助する際は居室の角等にぶつけてしまわないよう、周囲の安全確認を行い、細心の注意を払っている。行動を制限せず、安全に配慮した自立支援を目指している。		